

2025年度 第1回施設運営推進会議 実施報告

当センターでは、より良いサービス提供と施設運営の改善を目的に、外部委員（保護者代表）の皆さまと意見交換会を2025年12月5日に行いました。ここでは、主な課題共有と今後の方向性を分かりやすくまとめてお知らせします。

I. 人材確保に向けた取り組み

介護現場の人材不足が続く中、高齢者の雇用拡大や外国人スタッフの受け入れなどについて意見交換を行いました。

高齢者雇用の推進

60歳以上の採用も状況に応じて行っており、今後は行政施策とも連携しながら、より幅広い年代が活躍できる環境づくりを進めてまいります。

外国人スタッフの活用

他法人の成功例を参考にしつつ、指導体制の整備など課題を確認しました。横浜市西区は外国人留学生が多く、将来的な人材確保の可能性が高いとの意見がありました。

ボランティア活動の再開

コロナ禍で制限していた活動を再開し、生活支援を中心に多くの方に参加いただいております。

職員の働きやすさ向上

休憩スペースの整備や職員同士の交流促進など、現在働いている職員の皆さんのが働きがいを感じられる、魅力ある職場となるよう継続して取り組んでまいります。

2. 短期入所（ショートステイ）の現状

在宅介護を支える重要なサービスですが、夜間看護体制の確保が難しく一時的に定期受け入れを停止した時期がありました。

- ・現在は再開しておりますが、利用枠は限られています。(2026年1月より同様の理由で再びの停止となっております。ご迷惑おかけいたします。)
- ・新規利用ができないことへのご意見があり、「月に数日だけ新規枠を設ける」「申し込みだけでも受け付ける」など、段階的な改善案の提示を求める声がありました。
- ・他医療機関や施設と連携も進めているが、家族の負担が大きいなど課題を共有しました。

3. 施設運営の新たな方向性

深刻な人材不足を踏まえ、今後のセンター運営方針について意見交換しました。

在宅支援への重点化

長期入所の空床が出ても新規入所を増やす、短期入所や在宅支援に力を入れていきたい旨

報告はありました。

また、空きスペースの活用案として、空床を外部ヘルパーと一時滞在場所として活用する提案がありましたが、責任範囲の整理や制度上の課題など、検討が必要であることとして意見を共有いたしました。

国の制度動向

長期入所の定員等の小規模化が議論されており、今後の制度変更を注視しながら対応していく必要があります。

4. 家族との連携強化

コロナ禍で対面機会が減ったことにより、家族とのコミュニケーション不足が課題として挙がりました。

- ・定期的な話し合いの場を設けること
- ・必要に応じて半年に1回の会議開催すること
- ・家族同士のつながりを取り戻す工夫を行うこと
- ・不要物品を募る「ウィッシュリスト」方式の導入を検討すること

これらの取り組みを進め、家族との関係性をより深めていくことを目指します。

最後に

本会議では、外部委員（保護者代表）から多くの貴重なご意見をいただきました。

いただいた声を今後の運営に活かし、ご利用者とご家族が安心して過ごせる施設づくりを進めてまいります。